

1 日本人の寿命

第 21 回の生命表によれば、日本人の寿命は、男性 79.6 歳、女性 86.3 歳といわれています。これは、この年の出生児 10 万人がどのくらい生きるかを表した平均余命です。したがって、各世代の人があとどのくらい生きるのかということは世代ごとの数字を見る必要があります。たとえば、90 歳の男性であれば、平均余命は 4 年ほどです。近年、平均寿命の伸びに影響した要因としてあげられるのが感染症の克服です。次に心臓疾患が予防や治療により克服された成熟社会では、がんが寿命に関係する疾患になります。このようにして日本人は急速に寿命をのばし、現在の超高齢化社会での死亡原因の一位はがんなどの悪性腫瘍です。

2 年齢別生存曲線

日本人の生存曲線を年齢別にみるとどうなるのでしょうか。総務省統計局の人口推計(2010 年)、および国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口 (2012 年 1 月、出生・死亡の中位推計) をもとに、2010 年現在で 50 歳から 90 歳の各世代の生存曲線を描いてみます (図 1)。90 歳の方は出生後の衛生環境や戦争の影響で早期の死亡が有りますが、高齢になるにしたがって減少は緩余になり、寿命付近で死亡数が増加します。50 歳では、早期の死亡はほとんどなく、寿命近くになると死亡数が増加します。このように、生存曲線自体も時代とともに右側にシフトしてきているのがわかります。

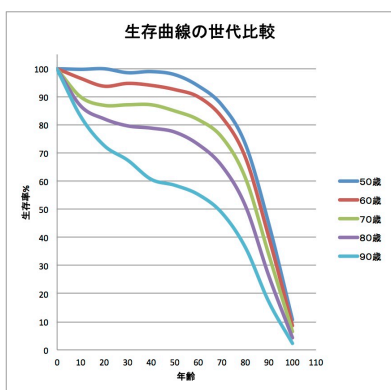


図 1 世代別の生存曲線

3 在宅患者の生存曲線

それでは、在宅患者の生存曲線はどのようになるのでしょうか。当院の患者 471 名（年齢の中央値 82 歳）の生存曲線を示します（図 2）。その結果、3 年生存率は 51% でした。これは、生存期間の中央値を 3 年と考えると、平成 24 年度の簡易生命表による 82 歳の平均余命（男女平均）の 8.7 年より短いと考えられます。

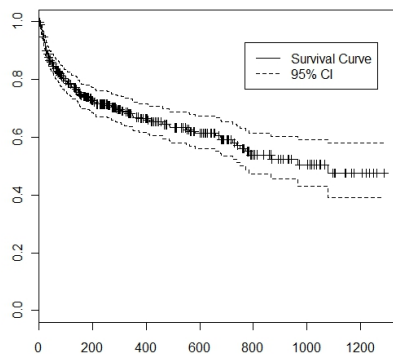


図 2 在宅患者の生存曲線

これを良悪性の疾患別に検討したものを図 3 に示します。悪性疾患は良性にくらべて有意に予後不良でした(Log rank test, $p=0.0245$)。

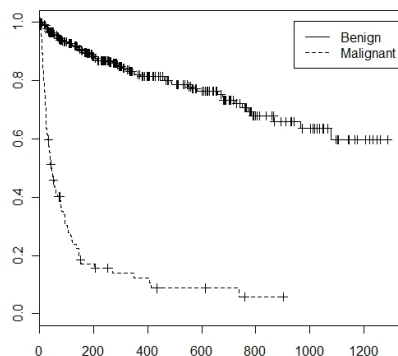


図 3 疾患別の生存曲線

次に生存率に関与する因子を、Cox 比例ハザードモデルを用いて検討しました。年齢（80 歳以上、80 歳未満）、性別、疾患（悪性と良性）で検討したところ、悪性疾患（ハザード比 12.11, 95% CI 8.578~17.1, $p<0.001$ ）と性別（ハザード比 0.69, 95% CI 0.499~0.951, $p=0.0234$ ）が予後に関連していました。

4 がん患者の生存曲線

次に、がん患者 100 名の生存率を検討しました。年齢の中央値は 78.5 歳と高齢で、男性が多い傾向でした。また、がんの内訳は、胃がんなどの消化器がんが最も多く 61%を占め、以下呼吸器 21%、腎臓・泌尿器 8%、甲状腺・乳腺が 5%を占めました。(図 4)。生存曲線から 1 年生存率は 11.5%で、生存率の中央値(MST)を求めると 39 日でした(図 5)。すなわち、在宅医療でのがんの診療は死亡するまでの一ヶ月余を診療している事になります。

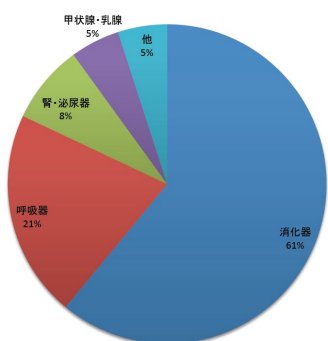


図 4 がんの種類

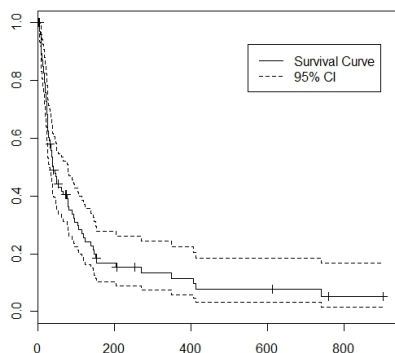


図 5 在宅がん患者の生存率

次に、年代ごとの MST を検討しました。その結果、年齢が高齢になるにしたがって生存期間は延長する事が明らかになりました(図 6)。とくに 90 歳代の方は 80 日と、平均の二倍であることがわかりました。これは、高齢者ほどがんの進行が緩余であることを臨床的に示しているものと考えられました。

高齢なほどがんの生存期間は延長

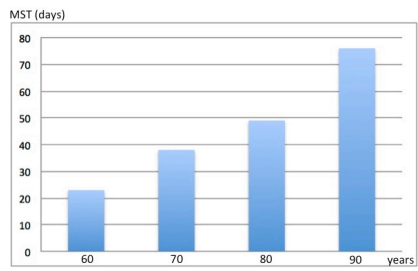


図6 年齢別 MST の比較

V1.1 2014/02/05

©2014 Kawasaki Takatsu Clinic & IHCM, all rights reserved